

今夏の一時帰国もおかげさまを持ちまして無事に日本滞在を過ごすことが出来ました。今回の一時帰国では、トモエそろばん様の教室に於かれましては、子どもたちにガーナの子どもたちが頑張つてそろばんに取り組んでいる様子を伝えることが出来ました。また、ご縁あつて他のそろばん教室も二か所見学することが出来ました。どの教室の生徒さんも真面目に練習に取り組む姿は感心しました。私自身が大変勉強になる教室見学でした。ある教室では、練習を始める前に一分黙想をするという取り組みを行っていました。この黙想はいいなと思ひ、村のそろばん教室では無いのですが、現在土曜日に講師を勤めている日本語補習校で、三年生算数の時に取り入れるようになりました。黙想は心落ち着かせ練習をする前、勉強する前にはたいへん効果があると見学時に感じました。村のそろばん教室では、黙想は取り入れるのは難しいと感じる中、これまでも大切に生きてくるものがあります。そろばんを弾く時の姿勢です。猫背では弾かない。姿勢を正しく。左手はそろばんに添えてやる。これらを子どもたちに“ジャパニーズスタイル”と言つて指導しています。その“ジャパニーズスタイル”と言われ姿勢を正すわけですが、言わない日はないほど毎回のよう誰かしら注意を受けています。一時帰国後、ガーナに戻つてから早速そろばん教室を開催しました。学校はスクールバケーション中のため、補習クラスが開校されているの同時開校です。補習クラスには参加しないギディオオン、そして高校受験を終えたパトリックが弟のアントニーを連れてそろばん教室に来ました。補習クラスに参加しているコンスタンス、セデム、ダバスは、授業終了後から参加したため練習時間はほとんどない状態でした。それでも教室に来てくれるのですからとても嬉しいことです。そうした八月のそろばん教室でも“ジャパニーズスタイル”と注意を受けた子どもがいました。パトリックとセデムです。

パーカーのフードを被つてそろばんを弾くのでフードを外すよう促し“ジャパニーズスタイル”と。そろばん教室にくる子どもには、練習を重ねること出来る嬉しさや楽しさを体験して自信を持つてほしいという思いがあります。けれどその自信が過剰となつてまだまだ勉強や練習することがあるのに、自分は誰よりも優れている”と思つて欲しくないと感じています。ガーナ人だけではなく誰でも私たちに日本人にもこうした他人をさげすむ行動はあるのかもしれないのですが、どう見ても時々、私が見ている生徒に感じてしまうのです。このフードを被つていたのは、寒かつたという理由なのかもしれません。しかし、私には前者のほうの思いが強く、そのフードを被つているという態度にイラツとしてしまうのです。もちろん注意をされたらその場で止める子どもたちです。しかし、次回も同じことで注意を受けるのも子どもたちなのです。

さて、前号65号でマイそろばんをようやく手にしたパトリックの報告をしました。今回はそのパトリックがめでたく4回目の検定で8級に合格しました。パトリックの悔しい顔も何回も見てきました。悔しい思いをするのは練習量が足りないから・・・九九を完ぺきに覚えていないから・・・パトリックに飴と鞭を幾度となく与え、叱咤激励をしました。私が、日本より甘いけれど検定制度を設けているのは、子どもたちに頑張つて続けるモチベーションはもろんのこと、学びには“これで良い”という頂点はなく、まだまだ出来る。まだまだ覚えることとはある”というのを実体験してほしいからなのです。そのためには、これからまだまだ試行錯誤しながら教室を運営していきます。

協賛

トモエそろばん様

報告 TOSHIKO



